

フルーツ・ステーションネットワーク推進プラットフォーム 県内視察 概要

1 趣旨

山形県におけるフルーツ・ツーリズムの推進のため、県内各地域における誘客や情報発信の場（フルーツ・ステーション）の創出や、そのネットワーク化の推進に向けた官民協働での検討の取組みの一環として、下記のとおり、プラットフォームの会員によるフルーツや食品加工に係る県の試験研究機関の視察調査を行うとともに、フルーツを活かした地域連携等を学ぶ講演を開催しました。

2 日時 令和6年1月30日（火）10:00～14:50

3 会場 山形県農業総合研究センター食品加工開発部
山形県農業総合研究センター園芸農業研究所（研修棟）

4 参加者 市町村・事業者等 23名

5 内容

- 山形県農業総合研究センター食品加工開発部（10:00～11:00）
 - ・食品加工支援ラボは、県内の農業者や食品製造業者等を対象に県産農産物を使った加工食品の商品開発等の取組みを支援する施設。
 - ・参加者は施設の概要と設備の説明を受け、衛生管理体制やさくらんぼやブドウを使ったセミドライフルーツの製造方法について学んだ。具体的には、フルーツの鮮度と形状を保つためにシラップ漬け等の前処理を行うこと、適切な温度と時間で乾燥させることなどについて説明を受けた。



（食品加工支援ラボ 視察）



（食品加工開発部 研修）

- 山形県農業総合研究センター園芸農業研究所（13:00～13:30）
 - ・園芸農業研究所では、山形県の果樹品種開発、品種開発の必要性、山形県の育成品種の紹介、新品種開発のプロセスについて説明を受けた。

○株式会社やまがたさくらんぼファーム (13:40~14:10)

- ・同社はさくらんぼを中心とした果樹園を運営しており、同社の沿革と経営戦略、6次産業化への取り組み、コロナ禍での対応などについて説明を受けた。

○株式会社東根農産センター (14:10~14:50)

- ・同社は生鮮フルーツの仲卸業のほか、フルーツの加工品製造やネット販売など多角的な事業を展開。傷みのあるフルーツの可食部を利用した、瞬間冷凍商品の開発・販売やふるさと納税の返礼品での活用など多岐にわたる事業内容について説明を受けた。



(園芸農業研究所 講演)



((株)やまがたさくらんぼファーム 講演)



((株)東根農産センター 講演)